三鷹市立南浦小学校　令和8年度【道徳】授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年		○登場人物の行動を共感的に受け止め、考えることができる児童がいる一方で、経験不足から登場人物の立場から考えることが難しい児童もいる。 ○スクリーンに挿絵等を映すことで、場面や人物が分かり、気持ちを考えやすくなっていた。 ○ワークシートを用いることで、児童自身の生活や経験を振り返る時間を確保した。しかし、自分の意見を文章にすることへの厳しさがある。 ○学んだことを自分の生活に繋げることができる児童が少なく、生かそうとする実践意欲には課題がある。	○自分のこととして具体的に考えられるように、日常生活の中で見られる身近な例や教員が経験した例を示し、考える時間や意見を共有する。 ○発問に対して、自分のこととして具体的に考えられるように、イラストを用いたり、日常生活の中で見られる身近な例を示したりして考える時間を十分に確保したりする。 ○ワークシートには、選択肢から考えさせたり、書く枠を広げたりして気持ちや理由を書きやすくする。登場人物の気持ちに寄り添って考えやすいような問いかけをする。 ○道徳的価値への理解と、道徳的判断力や実践意欲を育むために、役割演技を取り入れたり、児童の実生活における具体的な場面を共有したりして考えさせる。
第2学年	○自分事として具体的に考えられるように、日常生活の中で見られる身近な例を示すことで、具体的に考えられる児童が増えた。 ○1人で考える時間や意見を交換・共有し合う時間を十分確保することができた。 ○道徳的価値への理解と、道徳的判断力や実践意欲を育むために、役割演技を取り入れたが、照れてしまう児童が多く考えの深まりに繋がらない場面が見られた。	○自分の考えを積極的に発言できる児童と、考えはあるが発言することが難しいと感じてしまう児童がいる。 ○登場人物の気持ちを想像して考えることはできるが、一方で、「悲しい気持ちになる。」、「嬉しい気持ちになる。」などの記述にとどまり、自分の生活と関連させたり、自分ならどう行動するかを考えたりする児童が多くはない。	○自分の事として捉えることができるよう「自分ならどのように行動するか。」を考えさせる。 ○話すことが苦手な児童でも話し合いに参加できるように、ペア・グループ活動を取り入れる。 ○紙芝居・役割演技・ペープサート・ICTの映像などを活用して、視覚的に場面を想像しやすいように資料の提示を工夫する。
第3学年	○一部の児童は、まだ深く考えたり、多面的・多角的に考えたりすることができていない。 ○普段の生活と結び付け、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることが難しい児童が一定数いる。	○話し合いの中で自分の意見を伝えることはできるが、相手の意見を聞き、共感したり比較したりして深めることに課題がある。 ○振り返りの場面で、道徳的価値は理解していても自分事としてさらに実践に結び付けて生かしていることができていない児童がいる。	○発表に抵抗がある児童も自分の考えを話すことができるように少人数のグループを作るように配慮する。友だちと自分の意見を共有することで、考えを深めることができるよう、ペアや小グループ活動を積極的に取り入れる。 ○振り返りの場面では、道徳的価値について考えを深め、自分の生き方を振り返ることができるように、思考の時間を十分にとる。また身近な体験を思い出せるようにいくつか例を示す。
第4学年	○ICT機器や場面の絵などの視覚的に示す教材を活用することで、登場人物の心情を考えて発言する児童を増やすことができた。 ○ペアや少人数での話し合いの機会を設けることで考えを深めることができた。 ○資料をもとにした話し合いから、自己の生き方について振り返ることに課題がある。	○自分の考えをすすんで伝えることができる児童が多く、考えを広げたり、深めたりすることができる児童が多い。 ○振り返りの場面で、資料から発展させて自己の生き方について振り返ることができるようにする必要がある。	○「ICT機器や場面の絵などの視覚的に示す教材の活用」や「少人数での意見交換の場」など、効果のあった取組みは引き続き行い、登場人物の心情を考えて発言する児童をさらに増やしていく。 ○毎時間の学習で自己の生き方について見つめることができるように導入や発問、ワークシートの内容を児童の実態に応じて工夫していく。
第5学年	○少人数で話し合う場面を設けてきたことで話すことへの抵抗感がなくなったように感じる。 ○振り返りの場面では昨年同様、資料に引っ張られてしまい、自己について振り返られない児童が一定数いる。	○友だちの意見を聞くことはできるが、比較して考えを深めるところまで到達できていない児童が多い。 ○振り返りの場面で、資料から抜け出し、自己について振り返ることができない児童がいる。	○考えをより深めるために４人程度のグループで考えを伝え合う時間を設ける。その時に、自分の考えと比較しながら聞くという視点を与え、共通点や相違点を気付かせる。また、板書を工夫して、全体で共有した内容を板書に簡潔にまとめることで、自ら考えることが苦手な児童が考えをもてるようにする。 ○振り返りの場面では、道徳的価値について考えを深め、自分の生き方を振り返ることができるように、思考の時間を十分にとる。
第6学年	○様々な形式の意見交換をしていたため、どの場面でも自分の考えを伝えることができている。 ○自分と異なる意見にも耳を傾け、それらを踏まえた上で自分はどうしたいかと考える姿が見られる。 ○発言の二極化はまだ見られる。多様な考えがあることを知る機会が必要であると感じる。	○友達の意見に興味をもち、交流をすすんで行う姿が見られる。自分と比べてどうか、自分にとって「これだ」と思える価値観を求めて意見を伝え合うことが多い。 ○命、自然愛護など広義なテーマを扱うときに、自分たちの身近なものと結び付けて考えることに課題を感じる。 ○親切、思いやりなど身近なテーマの時でも、自分のこととして結び付けて考える姿勢が見えづらいことがある。	○児童が身近に感じづらい価値項目の授業において、教師の説話や学級の児童の体験談、映像資料などを用いて児童のイメージを膨らませてから自分の考えを書かせ、振り返りや交流活動に臨ませる。 ○展開前段における資料の確認において、展開後段で自分のことと結びつくような発問を設定する。また、自分のことに立ち返る前に、本時のめあてに触れることで、授業の流れをおさらいしてから考えを深められるような授業を展開する。